

# サンプルで理解する！ 創業計画書のチェックは ここがポイント

**落藤 伸夫** 事業性評価支援士協会代表 / 中小企業診断士

ここでは、日本政策金融公庫の創業計画書をサンプルとして、各記載項目のチェックポイントについて解説する。

**創** 業計画書をチェックする目的は、創業者が事業を成功させられる可能性を測ることである。

事業を成功に導く要素は様々だが、創業時の要素は比較的シンプルだ。すなわち、魅力的な商品やサービスを顧客に受け入れてもらうことと、従業員に前向きに働いてもらうことだといえる。

図表1にあるように、こうした場面ではリーダーシップと適応（二つの行動）がポイントになる。

行動のベースとなるのは実行力と共感力、そしてビジョン力だ（三つの能力）。さらに、それらの土台となるのが熱い心と冷静な思考である（二つの心持ち）。

創業計画書からは、まず創業者が熱い心と冷静な思考を備えていることを読み取り、実行力や共感力、ビジョン力の片鱗があるかを確認したい。

例えば、空欄が目立ったり内容が薄かったりする創業計画書や、資料の引用が疑われ

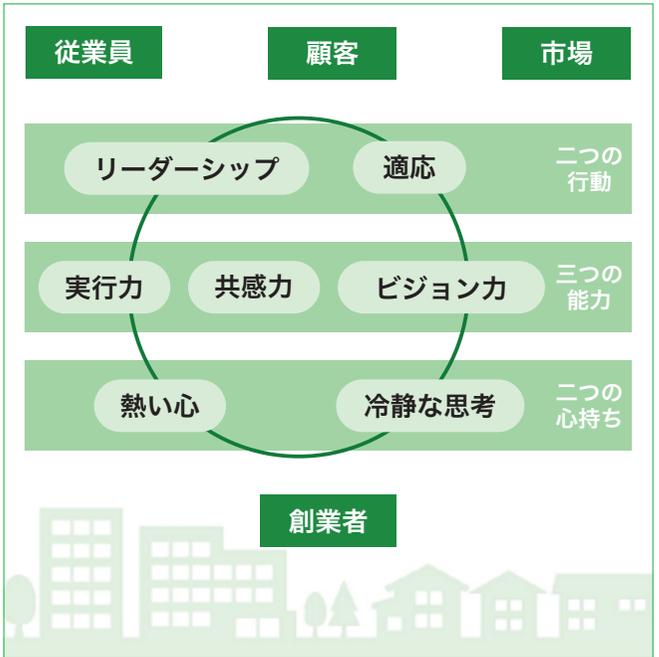
る創業計画書からは、熱意を読み取れないだろう。必要資金についても、設備に係る資金や仕入資金、人件費等の主要な項目を試算した気配がなく、ざっくりとした金額だけが記載されていると、冷静な思考ができていないか疑問に感じられるだろう。

他部分の記載内容とも併せて総合的に判断しよう。事業の核となる商品やサービスは重要だが、これはビジネスを開始した後も試行錯誤

してブラッシュアップすることになる。そのため創業計画書では、ラフスケッチあるいは方向性がしつかりと見定められているかをチェックすることになる。

例えば「雑貨小売り」とだけ記載されている場合、確固たる軸を持って事業が進められるか不安を感じるだろう。対して「忙しい毎日に憩いを与える雑貨を提供する（ビジョン）」や「顧客や市場と対話しながら（共感）、品ぞろ

図表1 創業ビジネスを成功に導く要素



(出所) 著者作成

**経営者の略歴等は  
 事業成功の判断のカギ**

ここからは、日本政策金融公庫の創業計画書をサンプルに、主な記載項目のチェック

**① 創業の動機**

ポイントを解説する。創業のきっかけや背景に「地域顧客が潜在的に抱える困難や課題を解決したい」「サプライチェーンの一環として技術力を発揮したい」あるいは「画期的な製品・サービスで顧客に貢献するとともに自分も豊かになりたい」等

**② 経営者の略歴等**

冒頭に挙げた三つの能力と二つの行動は、該当業界・業種における経験により身につく。したがって、経営者の略歴等は三つの能力が身につけており、二つの行動ができるかの判断の決め手となる。従前の勤務先での担当業務や身につけた技能・取得資格、知的財産権、実績等から経験度合いを確認しよう。勤務先での役割や過去の事業実績などから、組織のトップとしてのマネジメント能力等をチェックする。

**③ 取扱商品・サービス**

**具体的な記載の有無で  
 準備状況が分かる**

とはいえ、実際には必要な経験を十分に積んでいる創業者は少ないだろう。その場合でも、⑩自由記述欄に事業を行ううえで悩みや希望するアドバイス等の記載があれば、自らを冷静に分析する思考と成長していきたいという熱い心を読み取ることができ

